

校長あいさつ

本校は市街地から少し距離がありますが、広大な敷地に立地しています。全校舎とも1階建てのバリアフリーとなっており、廊下は車椅子が双方で通行できるスペースが確保されています。また、校内には色鮮やかな南国の花が咲きほこり小鳥のさえずりが聞こえ、窓からは伊良部大橋が見渡せ、野田の森が隣接しており自然豊かな教育環境にあります。その環境の中で、子ども達はのびのびと学校生活を過ごしています。

本校の今年度の幼児児童生徒数は、幼稚部4名、小学部40名、中学部17名、高等部28名の計89名が在籍しており、教職員は82名が勤務しています。今年度は創立47周年を迎えます。本校は、昭和52年（1977年）4月26日に宮古地区全域を通学区域として、沖縄県立宮古養護学校として開校しました。その後、平成21年に宮古特別支援学校に校名変更、翌平成22年にはこれまでの知的障害に加えて視覚・聴覚・肢体・病弱を含めた5障害種に対応した、宮古島市唯一の特別支援学校として教育実践に取り組んでいます。近年は「居住地校交流及び共同学習」の実践を充実させ狩俣小学校等と交流を行ってきました。今後は高等学校との交流も行う予定です。また、特別支援教育の「センター校」として、宮古地区の特別支援教育における役割を担い、今後も地域の幼・小・中、高等学校へ情報提供等を行います。

今年度は、「授業実践力」の向上を目指し、校内研修のテーマの1つに「教科学習の資質向上」を掲げています。また「自立活動」の視点で「個別の指導計画」の作成に向け、幼児児童生徒の個々の目標設定に焦点を絞り、教育的ニーズを明確化し授業改善に取り組めます。また、次年度の教育課程の編成に向け教育実践を行っていきます。学校経営では、地域の「センター校」、「魅力ある学校作り」を目標に、学校教育では、「幼児児童生徒の『社会参加、自立』に向けた教育活動の充実を目指す学校作り」を目標にしています。「センター校」として役割を果たすためには、「医療・労働・福祉」との連携、地域の関係諸機関との情報共有に努める必要があります。さらに「魅力ある学校作り」として、「人材育成」が魅力であると考え教職員の研修の充実を推進し、さらなる活性化に取り組んでいきます。

結びに、幼児児童生徒の「社会参加、自立」を目指し、今年度は交流教育の充実を図り、また健康管理、安全管理を行っていきます。さらに、保護者と連携を図り地域を大切にして学校運営を進める所存です。

県立宮古特別支援学校

校長 下地 靖子